

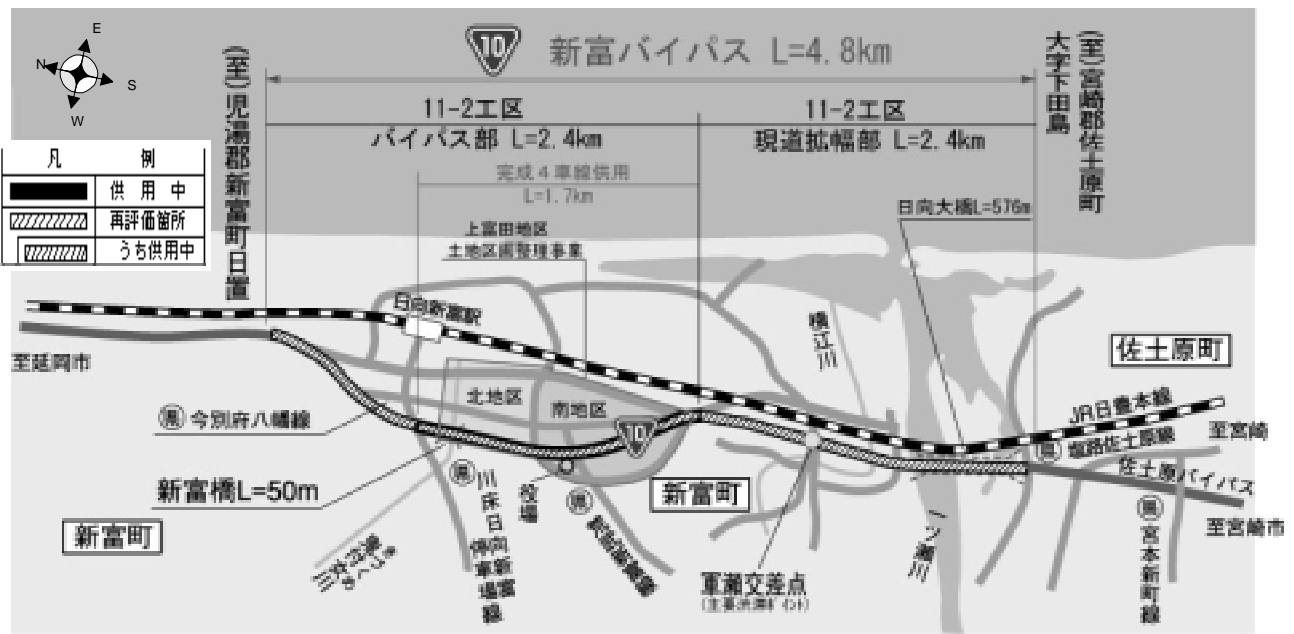
再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：中島 威夫

事業名 一般国道10号 <small>しんとみ</small> 新富バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局
起終点 自：宮崎県 <small>こゆ</small> 児湯郡 <small>しんとみ</small> 新富町大字 <small>ひおき</small> 日置 至：宮崎県 <small>みやざき</small> 宮崎郡 <small>さどわら</small> 佐土原町大字 <small>しもたじま</small> 下田島		延長 4.8 km
事業概要 一般国道10号は、北九州市から大分市、宮崎市を經由し鹿児島市へ至る延長約450kmの主要幹線道路である。新富バイパスは、バイパス部と現道拡幅部から構成される延長4.8kmの4車線道路である。		
S41年度事業化	S51年度都市計画決定 (S年度変更)	S41年度用地着手
S41年度工事着手		
全体事業費	約137億円	事業進捗率
		39%
		供用済延長
		1.7km
計画交通量	30,000～36,400台/日	
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 3.1 (残事業) 5.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 77/161億円 (事業費：59/143億円) (維持管理費：18/18億円)
	総便益 (残事業)/(事業全体) 393/503億円 (走行時間短縮便益：382/439億円) (走行費用減少便益：1/42億円) (交通事故減少便益：9/22億円)	基準年 平成15年
事業の効果等 ・国土・地域ネットワークの構築（日常生活圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる） ・安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる）他2項目に該当。		
関係する地方公共団体等の意見 新富バイパスは、国道10号の渋滞緩和に重要な役割を果たすことが期待されており、新富町から毎年早期整備の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 沿道地域の急激な宅地化などにより、交通量が増大しており、整備の完了していない現道拡幅部での交通渋滞が深刻化している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 バイパス部の一部は土地区画整理事業と同時に事業が進められたため、現在までに1.7kmを部分供用している。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 現道拡幅部のうち、混雑の原因となっている軍瀬交差点（主要渋滞ポイント）、日向大橋の整備を中心として早期に整備を行う。		
施設の構造や工法の変更等 日向大橋は全面架け替えでなく現橋を活用し、既存ストックの有効活用によりコスト縮減を図っている。横断函渠2箇所を関係機関との協議により1箇所に集約し、コスト縮減を図っている。		
対応方針	事業継続	
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。